

原文

大院君が事件の首謀者であるかのように誤解するおそれのある表現である。

大打撃をうけた朝鮮国内では、反日の気運が日増しに大きくなっていった。1882（明治15）年、国王高宗1863~1907の父大院君1820~98は軍隊の一部①を動かして日本公使館を包囲し、王妃の閔妃1851~95一族による政権をしりぞけようとして失敗した（壬午軍乱）。日清両国とも軍隊を派遣したが、清が大院君を天津に拘留して閔妃政権への支援②を行なったため、日清間に軍事対立が生まれた。さらに、

修正文

朝鮮国内で反日の気運が高まった。1882（明治15）年、王妃閔妃1851~95らによる軍制改革に不満をいだけ旧軍と市民は、閔妃派を一掃し、日本公使館を焼き打ちした（壬午軍乱）①。政権をにぎった大院君1820~98は、軍隊を派遣し、賠償を求める日本をしりぞけるなどしたが、清は大軍を送り、大院君を天津に拘禁し、閔妃政権を復活させたため、日清間の対立は深刻になった②。その後、